

《担当者名》○塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]  
石角 鈴華 [ishizumi-re@hoku-iryo-u.ac.jp]

## 【概要】

本科目では、創傷ケア全般について学習する。その中には、特定行為研修「創傷管理関連」を含む。創傷の管理や治癒過程について、より深く学習するための基礎知識を網羅する。そして、プライマリ・ケアで頻度高く遭遇する事例を想定しながら、エビデンスに基づいた創傷ケアの実践についてシミュレータを活用して演習を行う。

## 【学修目標】

NPとしての役割を鑑みながら、以下を学習する。

1. 創傷ケアの実践を展開するための原則を理解できる
2. 創傷ケアにおける多職種連携について考察できる
3. 皮膚及び軟部組織の解剖生理を理解できる
4. 皮膚及び軟部組織で頻回に遭遇する疾患の病態生理を説明できる
5. 創傷治癒のプロセスを理解できる
6. 創傷ケアにおけるヘルスアセスメントと創傷治癒評価について実施できる
7. エビデンスに基づいた手技を理解し、シミュレーター等を用いて創傷ケアの実践を行うことができる。
8. 自身の実践をチェックリストを用いて、適切に振り返ることができる。

## 【学修内容】

| 回       | テーマ                       | 授業内容および学修課題   | 担当者                    |
|---------|---------------------------|---|------------------------|
| 1       | 創傷ケア概論                    | <b>【講義】</b><br>・創傷ケアの実践を展開するための原則<br>・創傷ケアにおける多職種連携について<br>・創傷ケアに関するプライマリ・ケアNPの役割   | 渡辺美和（特別講師）<br>塚本<br>石角 |
| 2<br>3  | プライマリ・ケアにおける慢性創傷とそのアセスメント | <b>【Web Learning】</b><br>指定された動画を視聴し、慢性創傷、特に褥瘡の評価を主眼に学習する<br>・皮膚及び軟部組織の解剖と生理<br>・皮膚病理学と様々な皮膚損傷  | 塚本<br>石角               |
| 4<br>5  | 慢性創傷の治療                   | <b>【演習】</b><br>以下の内容についてプレゼンテーションを行う<br>・創傷治癒の過程<br>・患者のアセスメントと創傷治癒評価<br>・創感染：評価と管理<br>・下肢創傷の機序   | 渡辺美和（特別講師）<br>塚本<br>石角 |
| 6<br>7  | 下腿潰瘍の分類と診断・陰圧閉鎖療法の基礎      | <b>【Web-Learning】</b><br>指定された動画を視聴し、与えられた課題を行う<br>・下肢の静脈性疾患：CEAP分類<br>・診断・検査<br>・陰圧閉鎖療法の概念   | 塚本<br>石角               |
| 8<br>10 | 褥瘡のマネジメント                 | <b>【講義】</b><br>下記の内容について、プレゼンテーションを行い、学生同士意見交換し知識を深める<br>・褥瘡の評価<br>・褥瘡の診療アルゴリズムにおけるデブリートメント<br>・DESING-R に準拠した壊死組織除去の判断<br>・全身状態の評価と除去の適性判断<br>・デブリートメントの方法：外科的・科学的 | 柏田真希（特別講師）<br>塚本<br>石角 |
| 11      | 褥瘡のマネジメント                 | <b>【演習】</b><br>デブリートメントの手技を演習にて実施する   | 安倍正敏（特別講師）<br>塚本       |

| 回  | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-----|-------------|-----|
| 15 |     |             | 石角  |

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

筆記試験80%、実技試験20%にて評価する

**【教科書】**

創傷管理の必須知識(2008). ルース・ブライアント著他、エルゼビア・ジャパン

下腿潰瘍・下肢静脈瘤診療ガイドライン(2017). 日本皮膚科学会 (Mindsガイドラインライブラリより入手可)

**【参考書】**

適宜提示する

**【学修の準備】**

必要な文献・資料を熟読しておくこと